

都市全体が「町家の博物館」

NPO法人金澤町家研究会理事 長

金大名誉教授(都市計画)

川上 光彦 氏



町家というと真つ先に京都を思い浮かべる人も多いと思いますが、金沢の町家文化も決して劣りません。骨太な印象のある京町家と違い、金沢の町家は意匠や造りが繊細で趣があります。風雪に耐えられるよう軒が深く、プライバシーを考慮して格子が細く作られているなど、機能美を兼ね備えています。

多様性は京都をしのぐ

一口に町家といっても武家や商家、工房、廊で造りは大きく違います。金沢はその全てがそろっており、街全体が「町家の博物館」になっています。全国でも希有な都市であり、町家の多様性では京都をしのいでいます。

金沢城を中心に武家屋敷が密集し、その周りを商家や民家が囲むという都市構造もそのまま残っており、歴史ファンならずとも興味をそえられるでしょう。

近年は高山も町家で売り出していますが、観光地化が進み、どこかテーマパークのようです。それが悪いわけではありませんが、金沢のまちづくりとは一線を画します。

町家巡りは何日続けても飽きません。1軒1軒味わいが違い、

新たな発見があるからです。決して派手な存在ではありませんが、磨くことで質の高い観光名所になる可能性を秘めています。

もともと、残すだけでは意味がありません。現代の生活様式に合わせてアレンジし、活用することで町家は再び輝きます。飲食店や宿泊施設などに生まれ変わるケースが増えていますが、しつとりとした和の風合いが年配層には懐かしく、若い人には新鮮に感じるのでしよう。

地域ぐるみで活用法探れ

町家は貴重な歴史遺産ですが、住んでいる人のなかには、不便で古い家と思う人もいます。よう。階段が急で、段差も多

く、冬場は寒いなど、決して住みやすい住宅でないのも事実です。「上物を壊さないと土地が売れない」と考える人も多い。

ただ、適切に処置すれば、不便さの多くは解消します。金沢には町家に明るい設計士や大工も多く、市の助成金を受ければ費用も安く上がります。借りたいと願う人もおり、町家の所有者で解体するか迷っている人がいたら、是非私たちの研究会に相談してほしいと思います。

歴史ある街並みが有名なロンドンやパリでは、自分の所有する建物でも勝手に改装したり壊すことはできません。日本の法律ではそこまで厳しく規制はできませんが、建ち並ぶ町家の1軒が駐車場になったら、景観は大きく損なわれます。町家をこれ以上失わないためには地域ぐるみで活用法を考える必要があるでしょう。

(談)